

### 東京方面見学会を通して学んだこと

8月8、9日、東京方面見学会が行われた。私がこの行事に参加しようと思ったきっかけは、まだ自分の目標が明確に定まっていないので、これを通して視野を広げることが出来ればいいなと思ったからだ。

まず私は、まったく話したことのない人と班を組み、それで活動をするということに少し抵抗があった。もちろん、班の中には友人もいたが、ほとんどは話したことのない赤の他人だった。しかし、当然のことながら、班の全員が似たような方向を目指していたため、ある程度の計画はすぐに立てることができた。そのため、何度アポが取れなくても、班のみんなで考え合い、くじけることなく目指す方向の企業にアポを取ることができた。

まず始めに、DFによる夏季プログラムが行われた。最初の近藤玄大様による基調講演では、「左利きであるだけでも障がいであることもある。」という言葉聞いてとても新鮮な考え方だと思った。また、『ものづくり⇔映画製作』『ものは世界共通言語』『手による”表現”』などといった、普通の人では考えられない発想にとっても関心を抱いた。その後のグループセッションでは、様々な業界を代表するような方々から話を聞くことができた。おそらく、人生で二度とない経験だろう。

1人目の村上悠平様では、「自分のやりたいことは他人の反対を押し切ってでもやるべき」という言葉に背中を押され、自分のやりたいことに次々挑戦していこうと思った。また、『そもそも平等は大切か』という問題を班の全員で考え、「必要な平等とそうでない平等がある」など、とても中身の濃い話し合いができた。

2人目の矢ヶ崎隆二郎様では、「銀行は、世の中、人のためにあるお金を、ある人からない人へ移動させる、黒子のようなものだ」とおっしゃり、私が興味のある金融業について深く学ぶことができた。また、世界を股にかけて活躍する上で、ちがいを尊敬することが大切ということを学んだ。さらに、リーダーになるには、共通の目的を与えられるか、責任をきちんと取れるかが必要だとおっしゃっていた。

3人目の青木脛様は、私たちが社会で活躍する上で大切なことをたくさんお話してくださった。私の中で特に印象に残っているのは、『常に **What** を自問自答して **How** を想像する』ということ。誰かが決めたものをそのままこなすのではなく、「なぜこうするのだろう。」と考えることが大切だと学んだ。また、「失敗を山ほどするよりも、何もしないことが一番怖い」という言葉もとても印象的だった。

そして、この3名の方々に共通しているのは、「自分に自信を持つ」「やりたいことは失敗を気にせずやる」「英語は世界で活躍する上で必須」という考え方だ。この考え方が、様々な業界をひっぱるような人間になるためには欠かせないのだと思う。

次に、企業大学訪問をした。私の班は、三菱商事を訪問した。その理由は、海外進出も多く行い、今や世界をひっぱっている企業と言っても過言ではない三菱商事に、どのような考えで、どのように様々な企業と契約し、どのような目標を持っているのかなどをお聞きしたかったからだ。三菱商事ビルは、まさに大企業という感じの建物で、高校生の私たちへの対応も完璧だった。電話では、広報部の寺本さんという方にお話を聞く予定だったが、三菱商事の粋な計らいで、二高出身で三菱商事の金属グループ経営に携わっている宮村さんにお話を聞かせていただくことができた。

まず、商社というのは、やることが決まっておらず、どうしたら利益が出るか、「売る人 ↔ 三菱商事 ↔ 買う人」の関係で、両者を喜ばせるにはどうすべきかを考えるのが第一だということを知った。そしてその上で、自分が「こうだ」と思うもの以外に触れていくこと、自分の住んでいる地域だけでなく、視野を広くしていくことが大切だと学んだ。

次に、海外に多くの拠点を持つ上で、どのようにして信頼関係を築くのかをお聞きしたところ、小さなことから約束を守り、指示待ちにならないことだと答えてくれた。また、海外に拠点を置く利点は、様々な考え方を知ることが出来ること、日本を客観的に見れるということだと学んだ。世界中の社会情勢が商社には大きく関わるため、情報を入手することはとても大切らしく、ほとんどはニュースなどで知ることが出来るので、ニュースに出ないところを駐在員がいかに探せるかがポイントになるとおっしゃっていた。

そして、私たち高校生はこれから何をすべきかをお聞きすると、自分がなにかの仕事に関わる以上、「お前がいるからこうすることができた」などといった価値を見出すこと、少しでもやりたいと思ったことにとにかく動き出してみることだとおっしゃった。

最後に、私たちが就職する上でどのような志を持てばいいかをお聞きした。するとやはり、『自分のやりたいこと』をすることが大切だとおっしゃった。また、少しでも面白いとおもった、興味を持ったなどのキッカケで行動を起こすと、それがなにかのチャンスと呼び起こすかもしれないということを知った。

このように、企業訪問を通して数え切れないほどの学びを得ることができた。何度もアポが取れず、正直、三菱商事は最初に考えていた方向とは少しちがったが、最終的には、「三菱商事を訪問させていただけてよかった」と心から思うことができた。

企業訪問が終わってから集合まで少し時間があつたため、私たちは原宿の竹下通りを訪れた。仙台駅周辺とか比べものにならないほどの人、店、雰囲気、すべてに圧倒された。また、時々危ない人がいたので、気をつけなければならないと感じた。

ホテルでは、二高から東大に行った OB・OG の方々との座談会があつた。私たちは、主に勉強法についてお聞きした。3年生になってから、といった考えでは、高校受験とは違ってまったく間に合わないため、1回1回の定期テストに全力で臨み、定着させることが大切だと学んだ。また、朝に理系、夜に文系科目を勉強すると効率がいいらしい。

最後のコマで、私は衆議院に務めている方にお話を聞くことができ、とても多くのことを学んだ。その中でも、「東大は受けなきゃ受からない。」という言葉に、当然のことながら、とても感動した。東大に限らず、何ごとにも行動を起こさなければ成功することは100%ありえない。失敗することもちろんあるが、「失敗できてよかった」と思えるようにすることが大切だということを学んだ。また、常に自分の中でできるだけ高い目標を持つことが大切だとおっしゃった。なにか目標がないと、なにをしていいかもわからなくなってしまうからだ。目標を高く設定しておけば、後から下げることはできるが、最初から低い目標を設定してしまうと、後で上げることはほぼ不可能なのだ。

2日目は、国のトップである、東京大学を訪れた。

駒場キャンパスでは、Fair Windの方々の案内で、東大の様々な施設を見学した。また、モニターを使ったワークショップもしていただき、今までほぼ無知だった東大を詳しく知ることができた。プレゼンテーションでは、始めから目標が決まっていた東大を目指した場合と、そうでない場合の2人の方々の話が印象的だった。特に、2人目の方のお話の、「明確な理由はいらないから、とにかく高いところを目指していく」というのが自分にぴったりだったので、今は目標を決めるのではなく、上を目指せるような努力をすることが大切だと思った。

次に、本郷キャンパスへ移動した。テレビでしか見たことがなかった『赤門』を目の当たりにして、とても感動した。施設見学をしたあとに、模擬講義を体験させていただいた。高1には少し難しい内容な上に、100分という長い時間だったが、とても興味深いものだった。これを4年間受ける東大生は恐ろしく感じた。

今回と東京方面見学会を通して、私は数え切れないことを学び、体験した。おそらくこの経験は、忘れることがないだろう。今の自分に必要なのは、「自分のやりたいことをやり、より高みを目指すこと」である。目標が決まっていない以上、よりレベルの高い大学で、より多くのことを学び、卒業時により多くの選択肢を持てるようにしていかなければならない。今回学んだことを生かし、後悔のない選択をしていきたい。